＜認知症対応型共同生活介護用:

# 評価結果報告書

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 4675200192 |
| 法人名 | 有限会社　福寿 |
| 事業所名 | グループホーム　小山田の里 |
| 訪問調査日 | 平成　22　年　2　月　12　日 |
| 評価確定日 | 平成　22　年　3　月　31　日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会 |

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|---|---|
| Ⅰ. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

**○項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

# 1. 評価結果概要表

作成日 ################

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 4675200192 |
| 法人名 | 有限会社 福寿 |
| 事業所名 | グループホーム 小山田の里 |
| 所在地 | 鹿児島県姶良郡加治木町小山田1419番地1<br>（電 話）0995－62－7800 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 | | |
| 所在地 | 鹿児島市城山1丁目16番7号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年2月12日 | 評価確定日 | 平成22年3月31日 |

## 【情報提供票より】（平成21年10月1日事業所記入）

（1）組織概要

| | | |
|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成 16 年 1 月 26 日 | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤 13 人，非常勤 5 人，常勤換算 15．5人 |

（2）建物概要

| | |
|---|---|
| 建物構造 | （1号館）鉄骨 造り （2号館） 木造平屋 造り |
| | 1 階建ての 階 ～ 1 階部分 |

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 33,000円 36,000円 | | その他の経費（月額） | 5,100 円 （光熱費） |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有／無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1，000 | 円 | |

（4）利用者の概要（10月1日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 15 名 |
| 要介護1 | | 5 名 | 要介護2 | 5 名 | |
| 要介護3 | | 5 名 | 要介護4 | 1 名 | |
| 要介護5 | | 1 名 | 要支援2 | 1 名 | |
| 年齢 | 平均 | 85.8 歳 | 最低 | 80 歳 | 最高 94 歳 |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 加治木温泉病院 ・ 浜崎クリニック ・ さんのう内科 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道55号線沿いに建つホームからは、田園風景が眺められ、裏山からは小鳥のさえずりが聞こえる。ホームの広い敷地にも、桜、椿、梅、藤など多くの種類の木々が植えられ、四季を感じることができる。運営者は、利用者だけでなく職員にも庭に出て気分転換できるような環境作りと、地域の方にいつでも訪ねて来てもらえるように塀を作らずオープンにした取り組みは、地域の方々との夏祭りの交流に繋がっている。職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの状態や思いに合わせた丁寧な支援をしている。利用者と家族に最後まで安心して頂けるように医療連携も充実させている。

## 【重点項目への取り組み状況】

**重点項目①**

**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）**

前回の改善課題はなかったが、市町村との連携について、担当職員に事業所の考え方や実情を伝える機会を作られたらどうか、というアドバイスを受けて、事業所が主催する夏祭りに参加してもらい利用者の様子を知ってもらう機会を作っている。

**今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）**

各ユニット毎に日勤帯の職員が、前回の自己評価と比較してケアに関し取り組み内容に変化があった項目について話し合い意見を記入した後で、各ユニットの計画作成担当者と管理者でまとめている。職員はケアの振り返りと捉えて自己評価を行っている。

**重点項目②**

**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）**

会議は、民生委員、町担当職員、家族代表などのメンバーの他に時々近隣住民や小学校のPTA会長なども出席してもらいながら、定期的に開催している。事業所の現況報告、ヒヤリハットの報告、行事報告などの後に出席者による意見交換を行っている。事業所主催の夏祭りの取り組みについて地域の方からの賛同と協力の言葉を頂いている。地域の情報を得ることや運営に関する意見をサービスに活かせるようにしている。

**重点項目③**

**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）**

運営推進会議、年1回の家族会、年1回の無記名アンケート、面会時などで家族の苦情や意見、要望などを聞く機会としている。家族から感謝の言葉を頂くことが多いが、意見を言いやすい環境を作ることも大切だと感じている。どんな些細な事でも苦情受付簿を作り対応している。出された意見は、職員間で共有し話し合い運営に反映させると共に、その内容を家族にも伝えている。

**重点項目④**

**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）**

近隣との間に塀を作らずいつでも行き来できるようにしているため、野菜を頂いたり、避難訓練に参加してもらったり、利用者が訪ねて行ったりと日頃から交流している。自治会加入は自治会側で検討中であるが、事業所主催の夏祭りは地域行事になりつつあり、子供から大人まで参加し地域の方々の楽しみの一つとなっている。

# 2.　評　価　結　果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| 1．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「自分を愛し、人を愛し、自分らしくゆったり暮らしましょう」という基本理念を基に、地域密着型サービスとしての基本方針を立てている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者は、職員会議等で理念を確認し意義付けを行っている他、生活場面でも意識できるように玄関やホール、事務所に掲げている。 | | |
| 2．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 小学校の入学式やバザー、学習発表会などに利用者と参加している他、中学校の職場体験、学校の先生方の研修の受け入れもしている。地域行事の馬踊りに出かけたり、地域の方々を呼んで介護予防教室を開くなど交流に努めている。 | | |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 各ユニット毎に日勤帯の職員が、前回の自己評価と比較してケアに関して取り組み内容に変化があった項目について話し合い意見を記入した後、各ユニットの計画作成担当者と管理者でまとめている。職員は自己評価をケアの振り返りと捉えている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は、民生委員や行政担当者、家族代表などのメンバーの他、時々PTA会長や近隣住民が出席して、定期的に開催している。事業所の現況報告やヒヤリハット報告、介護サービスの公表についての報告などをしている。メンバーからの、地域の情報や行事への意見を討議しサービスに活かしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町担当者の異動等で面識をもつのも難しかったが、夏祭りに担当者の出席を依頼し見学してもらうなど、相談できる土台作りを行っている。 | | |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホーム便りは年4回発行し、行事や日頃の様子の写真を掲載している。面会時に健康状態や職員の異動などの報告をすると共に、金銭出納帳を確認しサインをもらっている。遠方の家族には、電話での報告と文書での報告も検討している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や年1回の家族会、無記名のアンケート、面会時等で家族が意見を表せる機会を作っている。苦情受付簿を作り小さな意見や要望にも対応するように心がけている。職員と話し合った意見や要望は、運営に反映させると共に、家族にも伝えている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員は各ユニット固定しているが、必要と思われる場合には異動することもある。行事の時には利用者も職員も行き来しているため、利用者へのダメージはない。管理者は別棟の事務所で、職員がストレスを溜めないように気持ちを聞いたり、相談にのるようにして離職を抑える努力をしている。 | | |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は希望を優先し、職員会議で報告している。事業所内でも必要と思われる勉強会を行っている。新入職員のための育成マニュアルを作成し、サービスの質の確保に努めている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 姶良、伊佐地区連絡協議会に加入し、グループホーム見学ツアーやジョイフル会議(食事をしながら交流会)など、管理者や職員の勉強会や交流会に参加し、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 申し込みの後に本人、家族と見学に来てもらい雰囲気を感じてもらっている。病院や施設からの場合は、必ず計画作成担当者が訪問し現状を把握し、本人との関係を築くようにしている。入居後は、不安にならないように家族の面会を多くしたり、大切なものを持ってきてもらうなどの協力をお願いしている。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者を人生の先輩として、尊敬の気持ちを持ちながら寄り添うことを心がけ、苦労話をした時などは共に涙し、言葉遣いや料理を教わった時には感謝の言葉を伝えるなど支え合う関係を築いている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時は、家族や関係者から情報を集め把握すると共に、入所後は、職員の観察力を活かしながら、利用者に寄り添い会話の中から思いを把握するように努めている。 | | |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 利用者と家族の意見や希望を面会時等で事前に確認し、ケア会議での職員の気づきを取り入れ、必要であれば主治医の意見も反映しながら介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 職員は、利用者毎のケア目標についての検討会を毎月行い、計画作成担当者が状態をモニタリングしている。状態に変化があった場合には必要に応じて見直し、状態に変化がない場合でも6ヶ月ごとの見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を活かし、看護師による日常の健康管理をしている他、特別外出支援では、自宅に様子を見に行ったり、買い物の送迎、生まれ故郷への帰省の支援など利用者に応じ柔軟な対応をしている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。往診や緊急時の受診など情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期における対応の指針を作成し、家族に説明、同意書も得ている。看取り経験はないが、ぎりぎりまで事業所で対応した経験もあり、家族を含めた関係者と話し合った情報を共有し、職員の研修も行い対応している。 | | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>１．その人らしい暮らしの支援<br>（1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は、利用者の誇りを傷つけないよう言葉かけに注意しており、管理者も上から目線の声かけにならないように指導している。記録物はホールで記入し、事務所で保管するなど適切に行っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の基本的な流れはあるが、起床や就寝、入浴時間など利用者の体調やペースに合わせ対応している。また、新聞を読む方は個人で購読したり、編み物をする方には毛糸を提供するなど利用者の希望に合わせた支援をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の希望を聞きながら、一週間分づつの献立を作成している。利用者はそれぞれの力量を活かし、野菜をカットしたり、皮をむいたり、お盆拭き、後片付けなどの手伝いをしている。食事前にはテレビを消し、音楽をかけるなど食事に集中できる環境を作っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 1ユニットのお風呂が、身体が不自由な方の対応に職員の負担が大きく、福祉用具でどのようにカバーするか、今までも話し合ってきているが、今後も検討を重ねていく予定である。入浴は週3回は入ってもらえるように、日曜日以外は毎日対応している。時には入浴剤やゆずなどを入れて楽しんでいる。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者のできる事や好きな事、拭き掃除、洗濯物たたみ、大正琴の演奏、花の植え替え、野菜作りなどをしてもらっている。楽しみ、気晴らしは季節毎の行事の他、歌やぬり絵、ボールを使ったレクレーション、ドライブなどである。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 職員と一緒に敷地内のそば屋に、ペットボトルに水を汲みに行く事を日課としている他、ウッドデッキでお茶をしたり、藤棚の下でご飯を食べたりといつでも戸外に出られるように支援している。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかける弊害については理解している。日中は鍵をかけず、見守りの支援をしている。外出傾向の利用者を把握し、職員が一緒に付いて行くようにしている。一人で外出しても地域の方に連絡してもらえる協力体制ができている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 建物は1号館、2号館、事務所と別棟になっているため、年2回の消防署立会いでの消防訓練の他、毎月1回防災の日を決め、避難通路の点検、通報訓練などの自主訓練をしている。近隣の方にも訓練に参加してもらったり、消防団との協力体制もできている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事のバランスを考えながら1日おおよそ1600kcalとして、摂取量のチェックもしている。水分は小さなペットボトルに還元水を入れ、いつでも補給できるようにしている。食事形態も、軟らかくしたり小さくするなど一人ひとりに対応している。 | | |
| ２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 1号館は、吹き抜けの天井に青空と雲が描かれ開放的で、天窓からは優しい光が入る。、2号館は木を多く使い共用の和室を備え落ち着いた雰囲気である。各居室から周りの景色を眺められ季節を感じれるように作られている。玄関前にはベンチ、ホールにはテーブルや、ソファが置かれ、ケーブルテレビから地域の情報が流れ、思い思いの場所で過ごせるようにしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室入り口には個別の表札と、避難誘導のための写真を掲げている。居室にはポータブルトイレを置かない介護をしている。ベットは備え付けだが、布団やタンス、椅子など使い慣れたもの、位牌や写真などの大切なものを持ち込んで、居心地良くすごせるようにしている。 | | |